

<研究功績賞>

受賞者:後藤元信氏(熊本大学工学部教授)

題目:「超臨界流体を用いたポリエステル可溶媒分解によるケミカルリサイクル」



理由:後藤氏は、メタノールや水などを溶媒とする亜臨界や超臨界状態を制御してPETのモノマー化について多くの実験研究を重ね、とくに分解機構を分子量の連続分布法を用いて解析している。そして超臨界メタノールを用いたPETの再資源化についてはベンチスケールプラントによる実証も実施している。これら一連の「超臨界流体を用いたポリエステルの可溶媒分解によるケミカルリサイクルに関する研究」の成果は、本研究会の研究功績賞としてふさわしい。

<技術功績賞>

受賞者:石川島播磨重工業(株) (チーム代表者 西野順也氏)

国立大学法人 室蘭工業大学 (チーム代表者 上道芳夫氏)

神奈川県産業技術センター (チーム代表者 松本佳久氏)

独立行政法人 産業技術総合研究所 (チーム代表者 永石博志氏)

題目:「ポリオレフィン系プラスチックの分解触媒及び高効率化学原料化プロセスの開発」

理由:この4チームからなるグループは、プラスチック油化分解において高活性な新規なメタロシリケート触媒の開発研究を基に、ポリオレフィン系廃プラスチックの分解による高効率化学原料化プロセスの開発に顕著な功績をあげている。この成果は本研究会技術功績賞



にふさわしく共同受賞とする。

左から 上道氏、西野氏、高橋氏(代理)、永石氏

<技術功績賞>

受賞者: 柴田勝司氏(日立化成工業株)

題目: 「FRPから樹脂成分とガラス成分を分離回収する技術開発」



理由: 柴田氏は、リサイクルの困難な繊維強化プラスチック(FRP)のリサイクルに関する研究を、企業の製造責任者として実用化を前提とした観点でもって着実に推進された。その研究成果は企業化の推進につながり、また学会での研究発表などにより社会的貢献にも繋がっている。具体的には「FRPから樹脂成分とガラス成分を分離回収する技術開発」は本研究会技術功績賞としてふさわしい成果である。

<研究進歩賞>

受賞者: 辻 俊郎氏(北海道大学)

題目: 「廃プラスチックの化学原料化において高効率な変換反応の基礎研究」



理由: 辻氏は、PVC の分解や脱塩素、ポリエチレンのモノマー化、廃プラスチック分解油の水蒸気改質など、新しい知見に基いた廃プラスチックのリサイクルの研究に取り組んでおり、廃プラスチックの化学原料化において高効率な変換反応の基礎研究に顕著な功績をあげている。これらの成果は、本研究会の研究進歩賞としてふさわしい。